

前回委員会における需給・価格見通しと実績の対比

1. 前回の委員会（平成20年7月17日）で示した夏秋キャベツの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月上旬時点）	備考
夏秋キャベツ （7月～10月）	<p>【事務局資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 供給計画：対前年比100 5月中下旬の低温、日照不足の影響が出ている産地があるものの、今後は<u>平年並</u>の入荷が見込まれる。 <p>【生産出荷団体資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生育状況は5、6月の曇天続きでややばらつきはあるが、平年並。 初出荷は前年並。高原キャベツ（寒玉）はやや遅れている。今後は<u>平年並</u>。 <p>【委員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年は昨年ほどの不作ではないが、17年、18年のような豊作基調ではない。 キャベツについては今年は堅調。 <u>8月、9月の価格は現状以下になることはないと思われる。</u> 特別に量が多いわけでもないが、このところ<u>価格が低下</u>しており、<u>消費低迷</u>によると思われる。 	<p>（入荷量）</p> <p>出荷時期の後ずれ及び好天の影響により、入荷量が特に8月中旬から9月中旬にかけて大幅に増加したことから、全体としては<u>平年</u>（過去5か年平均をいう。以下同じ。）を<u>上回った</u>。（7～10月上旬の東京都中央卸売市場入荷量の平年比：104）</p> <p>（価格）</p> <p>全国的に豊作となったため、価格は7月中旬以降、平年を2割から3割下回る水準で推移し、8月下旬以降更に下落した。</p> <p>このため、9月中旬、主産地の群馬等6県において、<u>緊急需給調整</u>が実施され、その後は一定の価格回復がみられたが、<u>全体としては平年を下回った</u>。（7～10月上旬の東京都中央卸売市場卸売価格の平年比：82）</p>	<p>・群馬及び長野等6県において、市場隔離を実施（9月中旬、約7千トン）。</p>

注1) 「前回委員会での見通し」については、前回委員会における事務局資料、生産出荷団体資料及び委員意見等をもとに作成。

注2) 「実績」については、野菜需給協議会幹事会資料、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1)

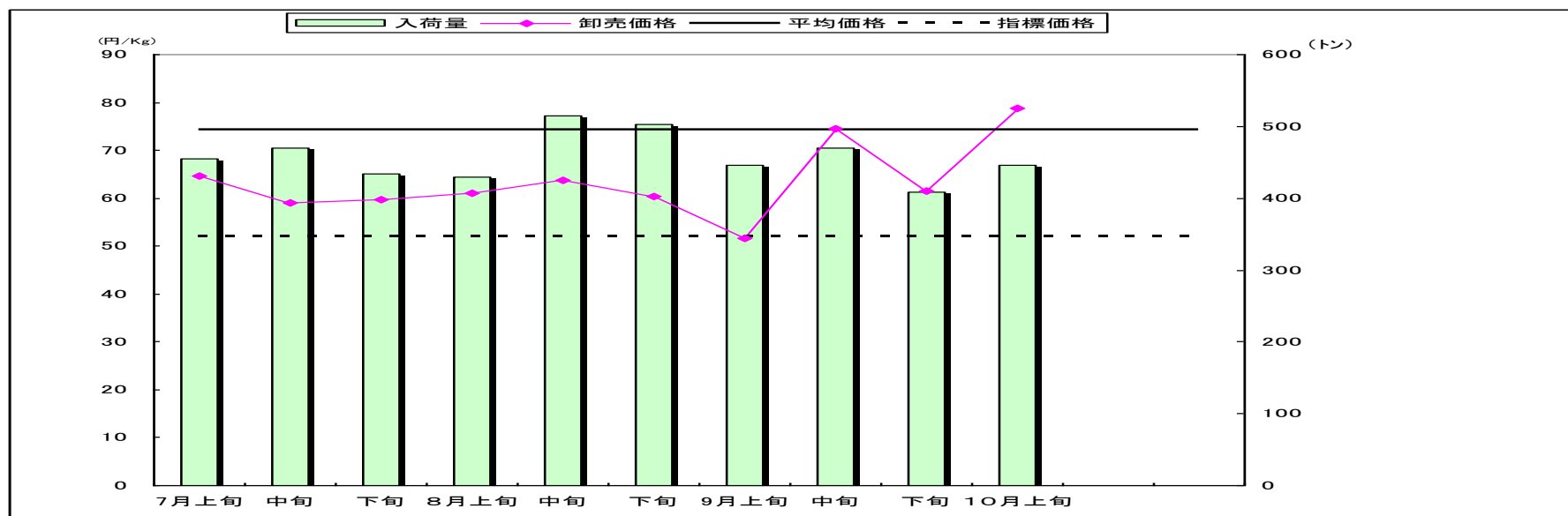
○20年産夏秋キャベツの入荷量と価格の平年比（平年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	106	99	93	91	111	110	112	115	95	109	—	—	104
価格	86	79	82	81	79	68	69	86	83	100	—	—	82

(注) 平年とは、平成15～19年の5か年の平均をいう。

(参考2)

○20年産夏秋キャベツの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場、平均価格は過去9か年。入荷量は各旬における平均日量）



2. 前回の委員会（平成20年7月17日）で示した夏秋レタスの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月上旬時点）	備考
夏秋レタス （6月～10月）	<p>【事務局資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 供給計画：対前年比104 4月下旬から5月上旬の気温が高かったことから、一時的に出荷が前進化したが、5月中下旬の低温により、6月上旬の出荷はやや少なくなった。今後は<u>平年並の入荷</u>が見込まれる。 <p>【生産出荷団体資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生育状況は、春以来の多雨により、マルチ内過湿状態。作柄は地域、圃場、品種間差ある。前年に比べ玉伸びは落ちる。病害の発生もあり反収は減。7月初旬数日夜温高く、玉伸びし先週一時的に出荷量増えたが、土日急激に照られ、巻き鈍り今週数量減少。 出荷時期は、播種・定植・出荷も平年みだが、全体的に昨型は前進化し、後ろは伸びて作期は拡大。 出荷のピークは、例年通り、6月下旬～9月下旬。 <p>【委員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>特別に量が多いわけでもないが、このところ価格が低下</u>しており、<u>消費低迷</u>によると思われる。 	<p>（入荷量）</p> <p>8月に主産地の長野で降雹と高温障害による影響を強く受けたこと等から、入荷量が不安定となったこと及び9月には、主産地の群馬で天候不良による病害の発生等により入荷が停滞した（出荷できなかつた）ことから、<u>全体として平年を下回った</u>。（7～10月上旬の東京都中央卸売市場入荷量の平年比：97）</p> <p>（価格）</p> <p>定植の遅れや天候の乱れ等により、9月以降はそれまでの低落状態から一転して回復し、<u>全体としては平年を上回った</u>。（7～10月上旬の東京都中央卸売市場卸売価格の平年比：107）</p>	

注1) 「前回委員会での見通し」については、前回委員会における事務局資料、生産出荷団体資料及び委員意見等をもとに作成。

注2) 「実績」については、野菜需給協議会幹事会資料、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考3)

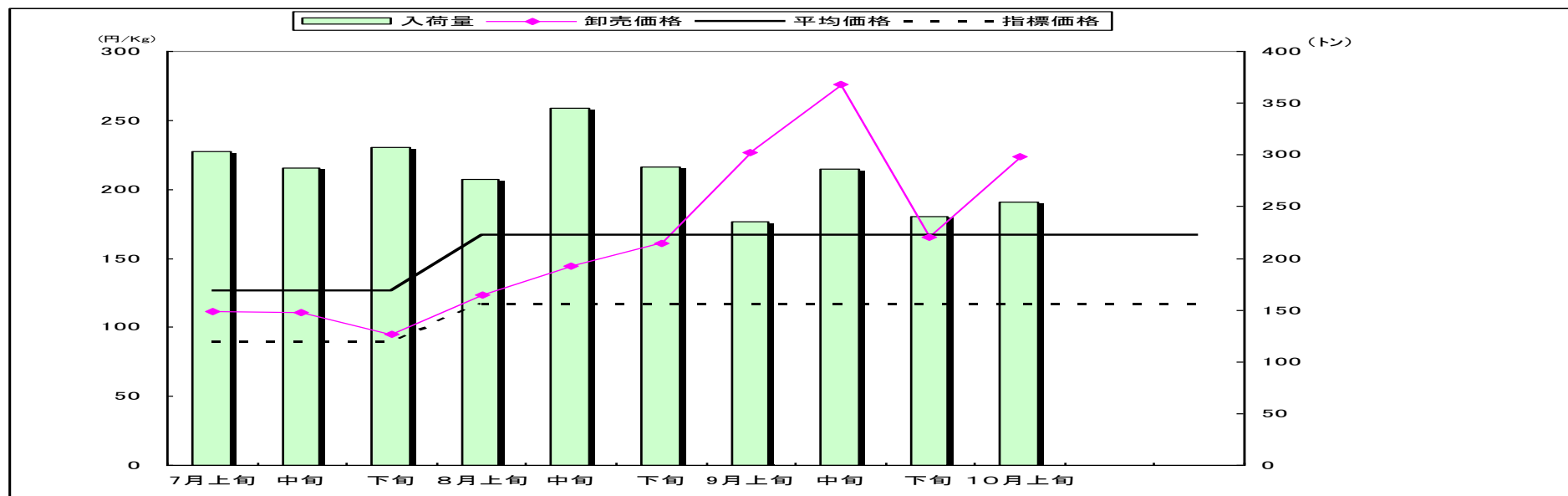
○20年産夏秋レタスの入荷量と価格の平年比（平年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	103	96	111	95	114	92	88	94	82	97	—	—	97
価格	109	90	60	74	77	85	157	167	127	147	—	—	107

(注) 平年とは、平成15～19年の5か年の平均をいう。

(参考4)

○20年産夏秋レタスの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場、平均価格は過去9か年。入荷量は各旬における平均日量）



3. 総括

前回の委員会時には、夏秋キャベツについて、入荷量は平年並、価格は平年を下回ると見通したが、好天等により入荷量が平年を上回り、価格は低落状態が続いた。また、レタスについても、入荷量は平年並、価格は平年を下回ると見通したが、入荷量は主産地における8月から9月にかけての天候の影響等により平年を下回ったことから、価格は8月以降回復し、全体的に平年を上回ることとなった。

こうした夏秋野菜で著しい価格低迷が生じたのは、作柄が良好となったことによる供給量の増加がその要因の一つと考えられるが、一方で、食料品・ガソリン等の高騰や例年になく夏の暑さに伴う消費者の消費パターンの変化など、周辺事情との関連を視野におきつつ、さらにその要因を分析・検討する必要がある。